

●浜の話題

- 1月20日、横須賀市の浦賀漁港入口にある生ワカメ直売場が盛況でした。獲れたての柔らかい生ワカメは、毎日品出ししてもすぐに売り切れてしまうほど人気で、遠方から買い求めに来る人もいます。横須賀市東部漁協のワカメ養殖は今シーズンも順調とのことで、多くの皆さんに新ワカメを楽しんで頂きたいです。



直売場の様子

- 1月26日、鎌倉漁協は昨年5月に発足した鎌倉ハマグリ部会の初めての総会を開催しました。当日は、担当普及指導員から貝桁網と鋤簾によるチョウセンハマグリ分布調査（特別採捕許可）の結果と、それをふまえた今後の「ハマグリ資源管理指針」について説明があり、出席者で内容を協議しました。操業頻度や漁獲量の制限とあわせ、成貝1個の漁獲に対し稚貝4個を放流するための放流積立金を同部会が徴収するなど、更なる取組みにより新たな漁獲対象種として定着を目指すこととなりました。



総会の様子

- 1月26日、横須賀市大楠漁協は、（公財）県栽培漁業協会が生産したクロアワビ種苗合計8,000個（漁協分：5,000個/殻長約50mm、（一財）横須賀市西部水産振興事業団分：3,000個/殻長約25mm）を佐島、秋谷、久留和地先の各漁場に放流しました。漁業者は見突きの箱眼鏡でカワハギやタコ等の食害生物がないのを確認したうえで、アワビの生息に適した場所にタマ網で丁寧に種苗を放流しました。



放流したアワビ種苗

- 1月末、鎌倉漁協所属の漁業者は、養殖ワカメの収穫を開始しました。今シーズンは種挿し（ワカメの幼葉がついた種糸を親綱に挟み込む作業）の後にアイゴやボラの食害を受け、2回も種糸を挿し直したそうです。一部の漁業者は食害防止ネットで親綱を囲うなどの工夫をほどこし、なんとか収穫まで大きく育てることができました。収穫したワカメはかながわブランド「鎌倉特産湯がきわかめ」や塩蔵ワカメに加工されて出荷されます。ワカメ天日干し風景は、県内各浜での早春ならではの風物詩です。



ワカメの天日干しの様子

●お知らせ

- 2月1日、当センターでは令和3年1月から6月までの長期漁海況予報を発行しました。これは昨年12月に（国研）水産研究・教育機構水産資源研究所が開催した会議での検討結果をもとに本県海域の漁海況予報をまとめたもので、概要は以下のとおりです。

予報概要（詳細は下記URL参照）

海況：黒潮は概ねA型基調で推移。沿岸水温は平年並から高めで推移し、暖水波及時には極めて高めとなる。

さば類（マサバ、ゴマサバ）：来遊量は前年並（伊豆諸島海域）。

マイワシ：来遊量は前年並から前年を下回る。

カタクチイワシ：来遊量は低調な前年並。

マアジ：来遊量は前年を下回る。

当センターでは年2回予報を発行していますので、これからの操業の参考にしてください。

・長期漁海況予報URL：<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/cnt/f430693/p1101542.html>